

福 議 委 号
令和 6 年 8 月 日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

経済福祉常任委員会
委員長 佐藤 孝男

所管事務調査報告書の提出について

令和 6 年 6 月 2 0 日福島町議会定例会 6 月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 8 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	3 吉岡温泉の排煙等対応について
調査期間	令和 6 年 8 月 2 1 日
出席委員	委員長 佐藤 孝男 副委員長 小鹿 昭義 委員 平沼 昌平 委員 平野 隆雄 委員 溝部 幸基
委員外議員	議員 藤山 大 議員 熊野 茂夫 議員 杉村 志朗 議員 木村 隆
出席説明員	町 長 鳴海 清春 副町長 小鹿 一彦 福祉課長 佐藤 和利 建設課長 紙谷 一 福祉課長補佐 吉澤 裕治
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 係 長 山下 貴義 主 任 角谷 里紗

[委員会意見]

調査事件 3 吉岡温泉の排煙等対応について（令和6年8月21日調査）

新たな吉岡温泉については、今年4月23日、供用開始直後から木質バイオマスボイラーの排煙や臭い、機械室の灯油給湯器等の騒音などの問題が発生し、近隣住民から苦情が寄せられる状況にあります。この度、町より問題解決に向けた対応策について資料が示されたことから、その内容を調査したので、調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

町が示した吉岡温泉の排煙等への対策については、検討経緯への疑念、効果を懸念する点もあるが、地域住民の負担解消のためにも早急に対策を講ずる必要があることから、今回の対応策については一定の理解をするが、次の事項について検討されたい。

1 騒音等対策について

(1) 騒音対策について

騒音対策として現在実験的に仮設している防音壁を本格的な防音壁に取り換えるとしている。騒音の発生源は灯油給湯器の排気口とエアコンの室外機であり、すでに仮設の防音壁により騒音を抑える効果があることを確認し、より高性能の物を設置するとしているが、完全な遮音は難しく、地域住民の負担が解消されるか懸念される。提示された設置予算が1千万円と高額になっており、より費用を抑えた工法等を検討する余地もなく進められることを憂慮する。

(2) 煙・臭い対策について

煙・臭い対策として、油煙・煤塵除去装置と排気希釈装置を新たに設置するとしているが、油煙・煤塵除去装置については、臭いを完全に除去できるものではないとの説明であり、防音壁同様、地域住民の負担が解消されるか懸念される。

(3) 木質バイオマスボイラーについて

今回の問題（煙・臭い）については、不慣れによる調整段階の不完全燃焼によるものとは別に、当初投入した燃料（木質チップ）に問題があったことは、その後使用している安定した含水率の木質チップによる運転の状況から明らかであり、その点については反省されたい。

木質チップの搬入口が露天のため雨天や降雪時の搬入に支障が出ることや木質チップ含水率への悪影響が懸念されることから、対策が必要と思慮する

ので検討されたい。

(4) 地域住民への説明と議会对応の在り方

旧施設のボイラー(重油・灯油)に比較し、バイオマスボイラーの特性を考慮すると、当初計画・設計の段階から、「騒音・煙・臭い」対策を充分念頭に置いて慎重に臨まなかったことが問題であったと指摘する。

結果として地域住民に迷惑をかけ我慢を強い、高額な予算補正となったことを大いに反省しなければならない。

いずれにしても地域住民に長期間我慢を強いることになっているため、対応策の内容・経過について積極的に情報提供し、しっかり説明することで理解を求めていくべきと思慮する。

厳しい財政状況下で「最少の経費で最大の効果」を念頭に計画を進めることが基本であり、近年の建設工事において、物価高騰以外に今回と同様の経過を辿っている点が多いと推察されるので、今後、充分注意して対応されるべきと指摘する。

旧施設を参考にした、煙突(高低・径)・機械室の防音壁の検討、外部防音壁等について、コスト軽減の可能性がありながら、計画変更周知の遅延で議論の余地も無く進められることを懸念する。

議会の対応についても、計画変更周知の遅延・経過説明不足により、適切な意見反映が出来ず、受任委員会の設定意義に疑義が残ったことを懸念する。